

「もとはこちら」のお話し

50 今月のテーマ 分かったつもり 出来てるつもり



ある年末の勉強会の平井先生

あした
朝に道を知れば

ゆうべ
夕に死するも可なり

本年最後の勉強会という事で、その日は年末にもかかわらず、いつもより沢山のメンバーが平井先生のお話を聞きに集まってきました。日帰りではちょっときついと思われるような遠方からも、そして、今日が初めての参加という方々も何人か見えていました。ところがその日の勉強会は、それまでとは全く様相の異なる勉強会になったのです。

北原ゆり筆

真冬の水行

先生がある会員に質問を投げかけた事が、ことの始まりでした。質問を受けたその会員の答えに激怒した先生は、「お前はもう(修行が)出来ている。出来ている者はワシの話など聞く必要はない。外に出ろ!」と言われたのです。

そして居並ぶ会員達に対しても次々と同じ質問を投げかけ、「お前も外に出ろ!」「お前も外へ!」と次々と室外に放り出されました。

揚句の果て、外に出された者に対し、女性を除く全員に、パンツ裸になって地べたに座るようにと命じられました。そして部屋に残った者に対し、

「お前達も外に出て、バケツに水を汲んできて、座っている者の頭から浴びせかけよ」と命じられました。

時として厳しい一面を見せられる先生でしたが、これ程の形相、そして激しい叱責の言葉を浴びせかける姿を見たのは初めてです。

結局、その日初めて来たという人達を除き、教室に残っていた男性達も全員自主的に外に出て、寒風吹きささぶ夜の暗い地面の上にパンツ裸で並んで座り、頭の上から何杯も何杯も冷水を掛けられるという経験をする事になりました。

しばらくして先生も教室から出て来られ、ホースを引っ張ってきて座っている男性陣に向かって放水する一方で、女性陣に対しては、「もつと勢いよく掛けんか!」と怒号の中で命令され続けました。その間、ざっと2〜30分位だったでしょうか。

その後、全員が教室にもどされ、今の体験から何を学んだかを、一人ひとり



話すように命じられました。答えは人によって様々でしたが、中には寒さと緊張、そして恐怖から震え上がって口がきけず、余計に先生から叱られるような会員もありました。

結局その日水を掛けた女性達は、人に水を掛けたその責任として、家に帰ってから今日から三日間、自分で自分に水を掛けるようにという宿題を頂く事になりました。

それから先生は次のような趣旨のお話をされ、その年最後の勉強会は終わりました。

「いいか、『人は死んでも死なない』と師匠から教えられた小坊主が、自分の兄弟子が死んでも泣かなかつた。しかし師匠はオイオイと泣いた。その師匠の泣く姿を見て、ある小坊主が、『師匠はいつも『人は、死んでも死なない』と教えてくれているのに、どうしてそんなに泣くのですか?』と聞いた。すると師匠は、『大切な人が死んでも泣かない、そういうお前らの姿を見て、わしは泣いているのだ』と応えた。

いいか、人は死んでも死なないという事を、言葉として、ただの知識として知っただけの者は、自分にとつて本当に大切な人が死んでも、泣かんのじゃ。人が死んだら泣け。それが、『死』というものが全身全霊で分かった者の、本当の人間の姿だ」。

男性たちは濡れたパンツを入れたポリ袋を手に、夫々帰っていきましました。

しかし最初に分かったような返事をしたとして室外に出されたその会員は、最後まで教室に入る事を許されず、一人取り残されたまままでした。表面的にその会員を叱り付ける事で、間接的に他の全員を叱咤するという、いかにも先生らしいやり方でした。

驚きの言葉

さて勉強会の時は、私はいつも録音機を持参し、先生の講義を持



ち返つて次の勉強会までの一週間、每晚それを聞くという事を習慣にしておりました。

それでその夜も先生の表情などを思い出しながら、一人静かにテープを聴いておりました。すると思いがけない事に、しかし当然と言えば当然の事なのですが、私達が教室から出されていた間もテープは回っており、その間の事がしっかりと録音されておりました。

実は私達が出た後も、先生はしばらくの間、その日初めて来られた方達と一緒に教室におられたのですが、その方達に対し、

「あいつらは長い間、私の話を聞きに来ているが、言葉を聞いただけで、分かった様なつもりになっている。言葉遊びなんかしても何にもならん。だからたまにはこうして喝を入れて、フルイにかけてやるんだよ。これで何人かは落ちるだろう」と言い残し、その後、自分も水とハツパを掛ける為に外に出られたのでした。

先生がいなくなった教室では、残された方達の遠慮のない言葉が録音されておりました。

彼ら彼女らは、今見たばかりの光景に驚きの声を上げ、心から感じ入つたように、「恐ろしいナァ、すごいなァ。今どき、こんな先生、いてたんや!」「本当にびつくりしたなァ。一時は自分も外に出て水を掛けられるのかナァ、この寒い中えらい事なつたなァと思つたわ」「それにしても会員の人ら、あんな厳しい中を、何年もよう通つてるなァ。偉いなァ。私、今までの自分がどれだけ甘かつたか、よう思い知らされたわ」等と口々に言っておりましました。

そして最後に、「私、難しい言葉はよう分からなかつたけど、それでも今日来て、本当に良かったと思つたわ。実は私ね、今までは自分の嫌いな人があつちから来たら、出来るだけ避けて顔を会わさん様にしていたのよ。だけどこれからはこつちから寄つていって、『元気か? 今日天気がいいね』とか、話しかける様にするわ。

そうしたら自分が強くなれる、幸せになれる、って言うてたやろ? あれを聞いて、私、ジーンときたんよ。その話聞いただけでも、本当に今日は来たカイがあつたと思つたわ」。

中和法と反撥法

実は、会員が次々と室外に出された後、先生から、「今日始めて来られたこの方達にも分かる様に、中和法と反撥法について説明しなさい」と指名され、私がとつさに思い付いた話があつた。例えば道で嫌いな人に会つた時、という話だつたのです。嫌いな人を避けて顔を会わせない様にするのは、自分にとつてはやりやすい楽な方法で、そういうのが中和法。それに反し、自分の気持ちに負けないで、嫌いな人を避けずに普通に顔をあわせ、挨拶するのが反撥法だという話です。

それまでも先生は何度も口を酸っぱくして「中和法と反撥法」という事を教えて下さいました。

例えば、寒い所で薄着でいるのは反撥法。

着たいだけ服を着るのは中和法。

例えばまた、お腹が空いても我慢して食べないのは、反撥法。

食べたいだけお腹いっぱい食べるのが、中和法。



人間は誰でも本能的に楽しい事や楽な事を追い求め、嫌な事は避け様とするものですが、しかし楽な事ばかりを求めていくと、適応能力に欠けた軟弱な人間になり、それでは進歩も向上も、ひいては幸せになる事もおぼつかない。

嫌な事に遭遇した時にも、それをチャンスと捉えて喜んでそれを受け入れられる幅の広い自分になれ。そしてその次には自分の向上浄化のために、自から進んで反撥法を求めらるくらいの求道者になれという様なお話です。

しかしそういうふうにならされた事を、ただ単に頭の中だけで理解し、そして「分かつたつもり、出来ているつもり」になつていて人がいかに多いかという事を、この日先生は指摘されたのです。

言葉の意味するところを全身全霊で深く理解し、それを自分の実生活の中で応用し、現実に活かす事が出来なければ、この反撥法と中和法という事についても、「本当に分かつた」という事にはならぬのです。

ですから、例えばこの反撥法という言葉聞いて、知識としてそういう言葉をどれほど知つていたとしても、現実に何か少しでも気に入らない事が起きた様な時に、それを相手のせいにしてたり、反撥して避けて通つたりする様な事では、本当の意味での反撥法も中和法も、全然分かつていないという事になるのです。

真剣な学び

平井先生の言葉を聞いた者が、聴いただけで分かつたつもり、或いは出来たつもりになる事を、先生は厳しく戒められておりました。言葉は耳で聞くのではなく、心で聞け。そして自分で実際に実行し、その事が身に付いてから、初めて、『知つた、分かつた』と言え、と言われるのです。百の知識よりも一つの実践です。

それと同時に、どこまで行つてもできない自分、完璧でない自分がいるという事をもはつきりと自覚し、謙虚であれと言われました。

今思い返しても、平井先生は本当に厳しい師匠、そして優しい先生でした。ご自分が教えよう、伝えようとする事を、真正面から真剣に学び取るうとする者に対しては、徹底して厳しく接しられました。ですからその厳しさに耐え切れず、先生から離れていく人もおりました。

しかし年明け早々の勉強会には一人の落伍者もなく全員が顔をそろえ、何事もなかつたかのような穏やかな勉強会が始まりました。

余談ですが、その年明けの会に、着替えの下着を持参した会員がいたと後で知り、それも学びのうちのひとつかと面白く思つたものでした。もう何年も前の、冷たく寒く、そして熱かつた勉強会での話です。

平井先生からはあらゆる機会を通してこの様に、言葉を通してだけではなく、言外の教えというものを沢山いただきました。

そういう様にして教えて頂いた数々の事を、この月報を通し皆様には出来るだけ正確に、そして時にはそれを噛み砕き、具体例なども交えながら、分かりやすくお伝えする様に心掛けておりますが、



正直この「もとはこちら」という事を正しくお伝えするという事は、なかなか難しいものだと感じる事があります。

例えば冷暖自知という言葉があります。

冷たいとか温かいという事は、言葉として教える事は出来ませんが、例えば実際の水の冷たさや熱さ等という事は、本人が身をもって体験する以外には伝えようがないのです。

言葉の深い意味を理解できず、言葉だけを聴いて分かったつもりになっており、現実の生活には何の変化も起きてこないというのは、先の話に出てくる「兄弟子が死んでも、泣かない小坊主」と全く同じです。それでは言葉など何も知らなかった頃よりもまだタチが悪く、煮ても焼いても食えない生煮え、生半可な状態で、本当に始末に終えないという事になるのです。言葉を聴いて、言葉を聞いていないのです。

知識よりも実行実践

「もとはこちら」という事は、単なる知識として勉強するだけでなく、実際の生活の中で身をもって行つてこそ価値があるのです。

その為には日々漠然と生活するのではなく、意識して生活の中に反撥法と中和法を上手に取り入れ、丁寧な生活をする事が大切です。そして、

「自分の人生を造っているのは、自分である」

「自分が体験する事の全ての原因は、自分にある」

「全ての事は、例えそれが苦しい事、辛い事であっても、全ては自分が幸せになる為に起つてくる」

という事を腹の底から納得できる様になるまで続けていく事が大切ではないかと思えます。

それともう一つ私がああ勉強会で学んだ事は、もとはこちらの話誰かに伝えていく事の大切さです。

指名され、とつさに話したあの具体例、「嫌いな人に出会った時」という話も、実は再生したテープを聴くまでは、あれ程までも喜んで頂けていたとは思っていませんでした。あのようなピリピリと

した雰囲気の中であつたから、聞く人々の心に強く響いたのかも知れませんが、しかしどんな状況の中にあつても、人は常に自分が幸せになる為の、真理の言葉を求めているものです。

ですから、「先ず自分が勉強し、出来るようになってから誰かに伝えよう」というのではなく、出来ない自分という事をしっかりわきまえながら、常に謙虚な気持ちで「もとはこちら」という事を、縁ある人々に伝えていかねばならないという事です。

自然の摂理や物事の道理の中から、人間としての正しいものの見方や考え方、人の生き方を学び取り、今までの惰性や習慣を打ち破るほんの少しの勇氣を持つ事で、必ず自分の明るい未来が開けてくるのです。

さてこの月報もお陰さまをもちまして、今月で五〇号を迎える事になりました。長い間お読みいただき、本当に有り難うございます。

同じ一つの文章を、繰り返し、繰り返し、何度もお読み下さっている方も沢山いらつしやると伺つておりますが、これからも少しでも皆様のお役に立たせて頂きます様に、「もとはこちらのお話」を続けて参りたいと思えます。ご意見や感想、またご要望などがございましたら、どうぞ遠慮なくお寄せ下さいますように、宜しくお願ひ申し上げます。



〔ご案内〕

二月の勉強会は、二月五日（土）午後七時からです。

次回は、三月五日（土）午後七時からを予定しております。皆様のご参加を、お待ちしております。

編集発行人 もとはこちら会 資料編集部 北原友也

専用Eメール <http://www.motoha-kochira.com>

mail: data3@motoha-kochira.com